

(1)

区民等及び区は、区政に関する情報を共有し、主権者である区民が、自らの判断と責任の下に、区政に参画できる住民自治の実現を目指すものとする

(自治基本条例…第3条-2)

# 杉並の問題をみんなで考える会

「考える会」は、杉並区の住民たちが、自分たち杉並区の住民たちのために活動する市民グループです。

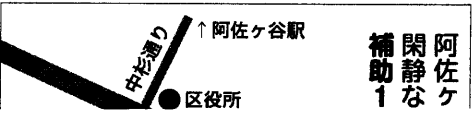
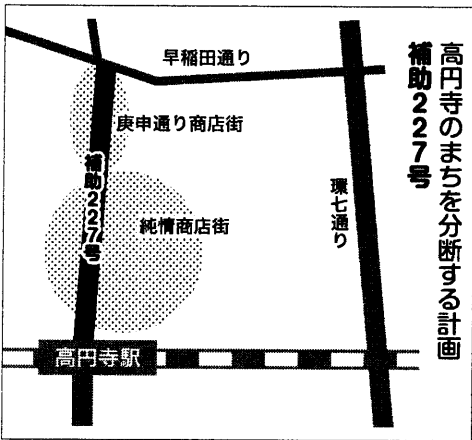
web:<http://suginami.kangaeru.tokyo/>

TW:@kangaeru\_minna

mail:minna@suginami.kangaeru.tokyo

# マジで止めよう!!

## 補助 132 (西荻窪) 補助 227 (高円寺) 補助 133 (成田東) 杉並の都市計画道路



杉並区内の「第4次優先整備路線」の一部

そこに「うまみ」が生まれ道路族と呼ばれる政治家が出現。お互いの利益をはかるた

この巨費に群がるように、田中良区長の政治資金パーテ

② それに比べ日本では田中角栄の列島改造ブーム以来、国の道路予算が急増。面積が約25倍もあるアメリカの道路予算に並ぶほどの巨額に。

① 道路予算をめぐる政官民一体の利権構造は、自治体にもそっくりそのまま当てはまり、杉並区も例外ではない。今年度の区の道路予算は約33億8000万円です。昨年より3億円も増えています。

高速道路建設を中止、または地中化したケースや、道路から自動車を締め出した商店街も。その結果、公園や緑地が増えて街は魅力を増し、商店街も人出が増え、売り上げが増加した。そんな実例が欧米各国にはたくさんある。

### (2) 利権から杉並の道

③ この数年、全国の高速道路網はほぼ出来上がった。このため国は新たな予算確

① 欧米の先進国では約40年も前から、自動車優先の社会を見直し、人間の暮らし優先、環境優先の社会に国の基本方針を切り替えている。

め土木業者を含めた政官民一体の利権構造が出来上がった。以来、日本の狭い国土には過剰な道路予算が、毎年計上されている。税金のムダ遣いは明らかだ。

### (1) 時代遅れで利権優先それが日本の道路行政

私たち「杉並の問題を考える会」は、今年の春以降、「研究会」と協力しながら、専門家を招いて都市計画道路問題の学。その結果、大事なことをいくつも学びました。住民が本気になって反対すれば、いま杉並で予定されていた止めることができる——それが私たちが得た結論です。これまでも「考える会」のツイッターなどで紹介してきました

萩窪の道路拡張を考える  
首会を続けてきました。

の計画道路3路線の工事も

したが、改めて要約します。

保の材料に、70年以上も前に計画され手つかずのままだった都市計画道路に「目をつけた。

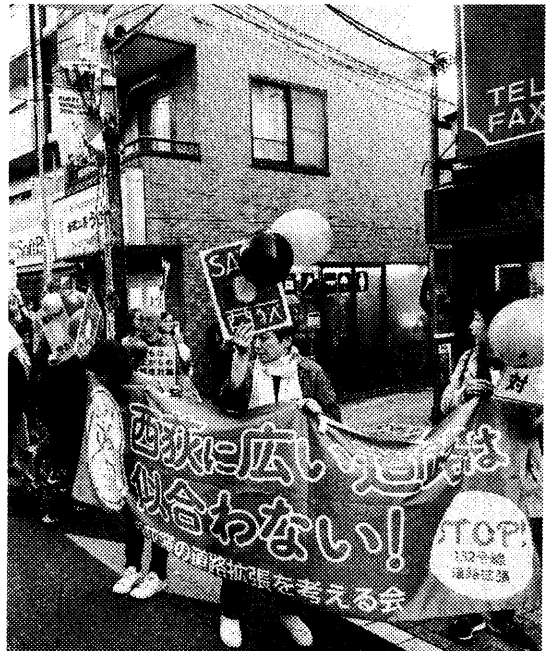
2019年度の国土交通省の道路建設予算は約1兆8000億円。前年度より約900億円も急増した。欧米のように時代に合わせて道路政策を転換することもなく、既得権益を守るようにひたすら道路を作り続ける。これが日本の道路行政の実態だ。

## 路行政も

イーや親睦ゴルフコンペには、関係企業の幹部たちが毎回大勢参加する。その資金と票が、田中区長の3選にもつながった。

② 今年7月、西萩窪の道路拡張に反対する住民たちが、地元町会の仲介で田中区長に面会できることになった。住民たちは区長が要望にこたえてくれるのでは、

台北口再開発の次はここ？  
住宅街を突っ切る計画



西萩そのままパレード (11月2日)

と期待した。しかし区長は住民たちに向かって「工事は必ずやる」と宣言、「反対してもムダだぞ」と暗に脅しもかけた。

区長は最初から、地域住民の暮らしや街に及ぼす影響など眼中になかったのだろう。自分たちの利権構造を守るのが最優先だからだ。

## ③ 工事は止められる 最後まで「NO」を

① このように都市計画道路は政官民の利権がからむ事業だ。自分たちが過剰な予算を確保し、工事を進めるお手盛り方式。防災上必要、緊急車両通行のためなどの説明理由は、工事を正当化するための大義名分にすぎない。

「防災上必要だから道路を広げる」はウソで間違い。それを証明した実例がある。

阪神大震災のとき神戸市長田区では火災もあって多数の犠牲者が出たが、その中の真野地区だけは奇跡的に被害が少なかった。昔ながらの狭い路地に近所同士つながりが残り、みんなで助け合い、火も消したからだ。逆に道路を広げれば地域のコミュニティは破壊される。防災力は落ちるのだ。

「商店街の安全向上のために道路拡幅を」も間違い。道路幅が広がれば商店街は分断

盾に、堂々と「NO」と主張し、渡り合っているはずだ。

② 私たち住民は、公共工事となると住民より行政の立場が強いと思いがちだが、それは逆。財産権や営業権をもつ地権者や、店を営業している店子のほうが立場は強い。工事に先立って土地収用の手続きをするためには、本来行政側が頭を下げ、協力をお願いしなければならぬからだ。  
「自分たちのほうが強い。そこに気がつけば住民側が勝てます」  
学習会で講演した専門家は、そう断言した。

では、具体的に対象地域の住民はどうすればいいのか。どんなに行政側に脅されても、用地買収交渉、個別交渉に応じない。書類にも絶対に印鑑を押しさないことだという。住民たちの反対が強ければ、強制収用も簡単にはできない。その結果、工事を止めることができるというわけだ。

実際、これまで全国各地で、埋め立て工事やダム、原発、ゴルフ場建設などを、この手法で工事中止に追い込んできたという。  
大事なことは「地域の住民たちが反対する自分の立場をしっかりと自覚し、みんなでまとめること」と専門家は指摘する。

(淳)

さあ、あとは私たちの決断次第。

マジで、本気で、道路を止めよう！

みんな、一緒に、この街守ろう！！

(注) 日本と欧米の道路行政の違いについては、服部圭郎・龍谷大学教授の講演、公共工事を止める手法については、熊本一規・明治学院大学教授の講演をそれぞれ参考にしながらこの文章を作成しました。

参考サイト

- 西萩窪の道路拡張を考える会 <https://blog.goo.ne.jp/ndk>
- 補助133号線を反対する会 <http://www.route133.info/>

- (Twitter) 高円寺再開発いらない! @SAVEKOENJI
- (Twitter) 西萩アピール @nishiogiappeal



集会では西荻132拡張反対署名も



区役所前で署名活動中の成田チームも合流

# 高円寺スタイル

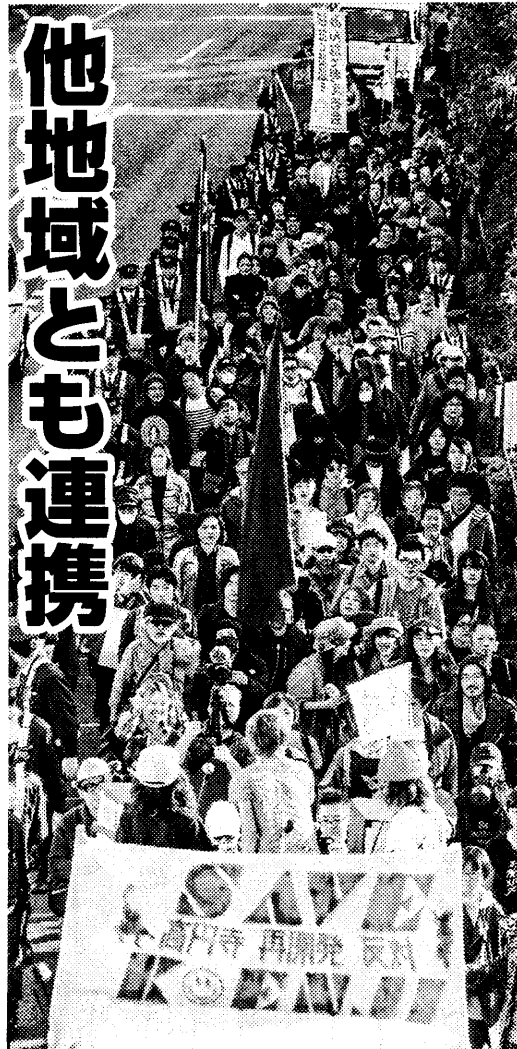
## サウンドカー2台仕立てで、高円寺から阿佐ヶ谷までの、4キ。強をサウンドパレード。

「なんで人間より道路なの？間違えている」  
(マイクスピーチのスペイン人・女性)

11月10日(日曜日)、  
「SAVE KOENJI」  
高円寺再開発反対のデモ(サウンドパレード)が行われました。

集合場所の高円寺中央公園ではミニ集会在開かれ、高円寺の商店主や高円寺を愛する外国人など高円寺を象徴するような多彩な顔ぶれの方々がマイクを握りました。

集会では西荻窪地域(132拡張反対)・成田地域(南阿佐ヶ谷133延伸反対)、阿佐ヶ谷北東地区の開発反対の方など、他地域の方の訴えも行われ、「もう開発要らない」の広がりを感じさせるミニ集会とデモでした。



# 高円寺再開発反対デモ

再開発などの地域に依拠する住民の活動は、他の地域には届きにくく、結果として狭い範囲にとどまりがちです。他地域の市民どうしが連携することで、訴えに広がりが生まれることは確かです。  
サウンドデモ(パレード)という形は、どこの地域でも簡単にできるといっわけではありませんが、示威行動という点では注目度は抜群です。高円寺ならではのスタイルに、他地域の市民も参加した今回のデモは、杉並全体の今後可能性を感じさせるものになったと思います。(い)

# 住宅街の真ん中に道路？ 133号線事業概要と測量説明会 成田東3丁目・4丁目を分断する計画始動？

## 地域住民に都の職員

第4次優先整備路線に指定されている補助133号線の成田区間の住民に対して、「東京都計画道路補助線街路133号線(成田区間)」の「事業概要及び測量説明会」のお知らせが配付されました。

杉並区内の第4次優先整備路線のうち、133号線は、「東京都施行」という形で、東京都が主体となった計画になっています。

東京都市計画道路補助線街路  
133号線(成田区間)  
事業概要及び測量説明会

11月14日(木曜日)

(18:30開場) 19:00~20:30

# 西荻そのままで タワマンいらない！

## 1000人を超える参加者でデモ 西荻アピール



### 見がお知らせ配付

1333号線の延伸が、第4次優先整備路線に決定されて以降、地域住民は、都へ計画の見直しを求めるなどの活動を行ってきましたが、いよいよ、説明会の実施という新たな段階に入りました。

この計画によると南阿佐ヶ谷駅周辺から、五日市街道まわりのつながるといふことで、そこには、住宅が建ち並んでいますけど、本気なんでしょうか？

11月2日(土曜日)、西荻窪で西荻アピール主催の「西荻窪駅前再開発反対」のデモ(パレード・西荻アピール)が行われました。

西荻南の平和児童遊園に集合した参加者は、「SAVE西荻」「1332号線道路拡張反対」「タワマン反対」「西荻守るぞ」「商店街を壊すな」などのプラカードを掲げながら、沿道の人と会話しつつアピールを行いました。

子ども連れでの参加も多く見られ、スピーカーから聞こえる子どもの「西荻にタワマンはいらない」「そうだあ」と応える大人がいるなど、和やかな雰囲気(西荻らしい?)パレードになりました。

北側道路拡張と、南側駅再開発は一体？

駅の北側、北銀座通り(都道補助1332号線)の拡幅計画は、本年度中の事業認可を目指しているといふことですが、実は、駅前南側の再開発は、現在のところ具体的には計画されていません。

とはいえ、道路計画では駅周辺の南側道路は幅20メートルにすることが決まっており、このまま北側の拡幅が進めば、駅前南側の風景が大きく変貌することはほぼ確実です。

「タワマン反対」という主張は、現在都内各地で見られる、いわゆる「再開発」で、道路を拡張する↓容積率が緩和される↓高いマンション(タワマンション)が建てられる↓ということを踏まえています。

都内の各地で見られる再開発ですが、ほとんどが民間のコンサルタント会社による計画となっており、そのため、「この街でも駅前にはタワマンションという同じ風景」が現れるのは必然といえます。

「住民が主体となつてつくる街」という考え方も転換するためにはどうしたらいいのでしょうか。

(い)

# 阿佐ヶ谷も忘れないで 訪問による対話でシール投票

## 阿佐ヶ谷北東地区開発計画

11月9日(土曜日)、阿佐ヶ谷開発問題を考えるシール投票の会(シール投票の会)のみなさんが、地域の商店・住宅を個別に訪問し、阿佐ヶ谷北東地区開発の問題点の説明とシール投票への参加を呼びかけました。Kさんから原稿を寄せてもらいました。

いつもは駅前で行っている訴えとシール投票ですが、初の試みで商店・住宅を一軒ずつ訪問しました。

仕方ない、という方も少なからずいましたが、多くの方が「けやき屋敷はそのまま残したい!」と。

出会った子どもたちやPTAの方も、「学校を病院跡地に行くのは反対」と。

たくさん話ができて、元

気もらいました。

次は杉並第一小学区の住宅街に入ろうと相談中です。

杉並第一小は歴史的にも、また、避難所になることを考えても今の場所であればなりません。

阿佐ヶ谷では貴重な緑を擁するけやき屋敷は今のままで残してほしいです。これは地域の声です。

(シール投票の会・K)

●優先整備路線の取組み状況については区のサイトか都のサイトで…  
●けやき屋敷のみどりを心配する会 <https://www.yashikirin.or>

参考サイト

11月16日(土曜日)  
(14:00開場) 14:30 ~ 16:00  
東田中学校体育館

